

ペイシャエス *Peisha Es*

牡 栗毛 2019.3.18生
北海道様似町 高村伸一氏生産
馬主・北所直人氏 美浦・小西一男厩舎
馬名意味・冠名+父名より

バレードンシングIRE系 F5-h

エスポワールシチー 栗毛 2005	ゴールドアリュール 栗毛 1999	サンデーサイレンスUSA ニキーヤUSA
	エミネントシチー 鹿毛 1998	ブライアンズタイムUSA ヘップバーンシチー
リサブシュケ 鹿毛 2011	ワイルドラッシュUSA 鹿毛 1994	Wild Again Rose Park
	バレードンシングIRE 栗毛 2002	Gian's Causeway
		Soltura

5代までのインブリード：Hail to Reason S5×S5 Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

高村伸一氏(生産者)

競馬場でみんなで喜び合いました

家族や親戚と競馬場で応援しました。競馬場にはなかなか行く機会がないのですが、生産馬の重賞勝利を目の前で見るといふ貴重な経験ができ、みんなで喜び合いました。生産者としてはどの生産馬にも期待するものですが、オープンまでいく馬はとも少ないです。いつもペイシャエスをよい状態に仕上げてくださいる小西厩舎の方々には心から感謝しています。



H.Kawai

エスポワールシチー産駒の本馬はデビューから一貫してダート路線を歩み、3歳時にユニコーンS、名古屋グランプリと重賞を2勝。ジャパングラートダリーでも2着に食い込んだ。飛躍を期待された昨年は白星には手が届かなかったが、トップハンデタイの58kgを背負った前走のマーチS(3着)で復調を示し、この日は一段上のパフォーマンスを披露。8着に敗れた1年前の雪辱も果たして重賞3勝目を挙げた。

逃え、勝利を掴んだ。エスポワールシチー産駒の本馬はデビューから一貫してダート路線を歩み、3歳時にユニコーンS、名古屋グランプリと重賞を2勝。ジャパングラートダリーでも2着に食い込んだ。飛躍を期待された昨年は白星には手が届かなかったが、トップハンデタイの58kgを背負った前走のマーチS(3着)で復調を示し、この日は一段上のパフォーマンスを披露。8着に敗れた1年前の雪辱も果たして重賞3勝目を挙げた。

父エスポワールシチー

北海道門別町 幾千世牧場生産 中央、地方、北米40戦17勝(ジャパンCダートG₁、フェブラリーS_G₁、JBCスプリントJ_n₁、マイルチャンピオンシップ南部杯J_n₁ 3回、かしわ記念J_n₁ 3回、みやこS_G₃、マーチS_G₃、名古屋大賞典J_n₃Ⅲ)、最優秀ダートホース2回、ダートグレード競走特別賞2回、14年から供用〔代表産駒〕**イグナイター**(JBCスプリントJ_n₁、さきたま杯J_n₂Ⅱ、かきつばた記念J_n₃Ⅲ、黒船賞J_n₃Ⅲ)、**ヴァケーション**(全日本2歳優駿J_n₁Ⅰ)、**ペイシャエス**(本馬)、**ケイアイドリー**(北海道スプリントC_n₃Ⅲ)、**メモリーコウ**(ブリーダーズゴールドC_n₃Ⅲ 2着、マリーンC_n₃Ⅲ 2着、東海S_G₃ 3着)、**スマイルウィ**(さきたま杯J_n₂Ⅱ 2着、テレ玉杯オーバルスプリントJ_n₃Ⅲ 2着)、**ショーム**(パレンタインS_G₃Ⅱ、グリーンチャンネルC・L2着)、**ロードヴァレンチ**(ブラジルC・L3着)、ヤマノファイト(羽田盃、京浜盃、報知オールスターC、ニューイヤーC)、インベリシャブル(黒潮盃、鎌倉記念)、ステラモナーウ(菊花賞)、フジコチャン(優駿スプリント)、エスポワールガイ(黒潮盃)、アイウォール(川崎マイルズ)、ホールドユアハンド(クラウンC)

母リサブシュケ

北海道様似町 高村伸一氏生産 中央8戦2勝、地方11戦0勝

ペイシャスカイ(18 牡父ディープスカイ)中央5戦0勝、地方33戦8勝

ペイシャエス 本馬(19 牡父エスポワールシチー)中央11戦4勝(ユニコーンS_G₃Ⅱ、エルムS_G₃Ⅱ、マーチS_G₃Ⅱ 3着)、地方7戦1勝(名古屋グランプリJ_n₂Ⅱ、ジャパンダートダービーJ_n₁Ⅱ 2着、JBCクラシックJ_n₁Ⅱ 3着、白山大賞典J_n₃Ⅲ 3着) 獲得総賞金191,925,000円

ペイシャマカロン(20 牡父ガルボ)中央2戦0勝、地方40戦1勝(21 不受胎)

ボースロマネ(22 牡父マクフィGB)◎

(23 牡父ディーマジスティ)

(24 牡父ゴールドドリーム)

祖母バレードンシングIRE

愛0勝。06年輸入、19年死亡

タイセイモンスター(09 牡父アグネスデジタルUSA)中央3勝

リサブシュケ(11 前出)

曾祖母ソルトウラ Soltura

アイルランド産 不出走、ディスカヴァーローマ Discover Roma(ザノレット賞・伊L3着)の母、**ペイショアフリーウェイ** Bayshore Freeway(ボンテフラクトカースルS・英L、プロンテC・英³3着)の祖母

クビ差で掴んだ1年8カ月ぶりの勝利

2つのダート重賞が組まれた8月の1週目。札幌のエルムSには2022年のホープフルSの覇者ドゥラエレーデが参戦し、ダート路線に先手を向けた昨年暮れ以降、砂の一線級とも互角に渡り合ってきたドゥラメンテ産駒が頭ひとつ抜けた支持を集めた。初勝利を挙げた2歳時の未勝利戦と同じ舞台で、久しぶりの白星まであと一歩と迫った同馬。しかしその前にはダート重賞2勝の実績を持つ5歳馬ペイシャエスが立ちほだかった。

逃げ切り勝ちを収めた前走の平安Sに続き、重賞連勝を狙うミトノオーが軽快なダッシュで飛び出して先手を奪取。この2番手にドゥラエレーデが続

く。函館のマリーンSでオープン初勝利をマークした勢いと、2戦2勝のコース実績を評価され、2番人気の支持を集めたナチュラルハイが3番手のインに収まり、ペイシャエスの横山和生騎手はその外を追走。4番人気のプロミストウオリアも好位勢の直後につけ、上位人気の5頭は前のポジションでレースを運んだ。

素な逃げを許さず、前にプレッシャーをかけながら進んだドゥラエレーデは3コーナーで先頭に並びかけ、4コーナーからスパート。懸命に抵抗するミトノオーを残り200m地点で競り落とし、押し切りをはかる。そこへ襲い掛かってきたのがペイシャエスだった。反応はひと息と映った勝負どころでも、横山騎手の叱咤激励に添えて離されずについて回り、直線に向くと息の長い末脚を發揮。先に抜け出したドゥラエレーデをねじ伏せるようにして捉え、勝利を掴んだ。